

クローンは故郷をめざす

僕は、生き続けなくちゃならないんだ…



エグゼクティブプロデューサー

ヴィム・ヴェンダース

脚本／監督

中嶋莞爾

出演

及川光博

石田えり

永作博美

嶋田久作

品川徹

SUNDANCE FILM FESTIVAL サンダンス・NHK 国際映像作家賞2006 受賞作品

第21回 東京国際映画祭 日本映画・ある視点部門 正式出品作品

32^a MOSTRA INTERNACIONAL DE CINEMA

第32回サンパウロ国際映画祭 特別招待作品

"The Clone Returns to the Homeland"

製作「クローンは故郷をめざす」製作委員会／配給 アクシオン・インク／企画プロデューサー 櫻井裕也・植草敏雄／プロデューサー 井上潔・山本理恵・多胡由幸／撮影監督 浦田秀純／照明 常谷良男／録音 白井勝
美術監督 木村威夫／ヘアメイクデザイナー 嶋田あき／美術 安宅紀史／VFX 隠田雅浩／衣裳 宮本まき江／音楽 山下雄太／編集 目見田健／助監督 北川博康／ラインプロデューサー 関友彦／支援 文化庁

この映画の強みは人間の感情を扱う点であって、単なるSFストーリーとは異なり、知的な力を持って観客に訴えかけてくるのです。私は、最初に脚本を読んだ時点で、この作品がベストだと既に決めていました。多くのSF作品はただ単に頭脳的に考えられた物でした。この映画はそれらとは違います。頭ではなく心で作られてできたものです。

ヴィム・ヴェンダース
(サンダンスNHK国際映像作家賞受賞時のコメントより)

"The Clone Returns to the Homeland"

クローン人間を通して描く、究極の人間愛のかたち

「僕は、生き続けなくちゃならないんだ…」

生と死を越えて伝わる、愛する者への想いと、家族の強い絆。死者と生者の魂がめぐりあう、その幽玄な静けさに満ちた世界を、圧倒的な映像美で描く意欲作。これは遠い日の絵空事ではなく、生きることの意味を問いかけた“普遍的な物語”である。

ヴィム・ヴェンダースが発見した、新しい日本の才能!

国際的に優れた脚本に与えられる、サンダンス・NHK国際映像作家賞2006受賞作品。この企画を絶賛したヴィム・ヴェンダースは新しい日本の才能をサポートすべく、エグゼクティブ・プロデューサーとして参画! 脚本・監督の中嶋晃爾は本作が初劇場公開作品。これまで自主映画で数々の国際映画祭において各賞を受賞。満を持して振り上げた本作は、処女作とは思えない計算された映像、演出によってそのテーマを世界に向けて問う。



映画初主演となる及川光博が、孤高で気品ある存在感をもって見事に三役を演じ分ける。共演に石田えり、永作博美、嶋田久作らのベテランキャスト陣が、揺るぎない演技力を発揮。

ストーリー:

作業中に殉職した宇宙飛行士、高原耕平は合法的クローンとして蘇るが、記憶障害のために、少年期の記憶を持ったまま再生されてしまう。彼にはかつて子供の頃に、自分の過ちのために事故死させてしまった双子の弟がいた。耕平の妻時枝は、心の傷を抱えたまま生前と変わらぬ容姿で帰ってきた夫に、とまどい、その現実を受け入れることに対し葛藤するが、やがてその存在を愛おしみ、受け入れていくことになる。そんな中、記憶の混乱が生じた耕平は、病院を抜けだし、かつて家族で暮らした故郷を目指して歩み始める。そこで彼が見たものは…



<http://clone-homeland.com/> 2008年/日本/35mm/カラー/110分/アメリカンビスタ/DTSステレオ/©「クローンは故郷をめざす」製作委員会

'09年1月10日(土)~都内独占ロードショー!

特別鑑賞券 好評発売中! ¥1500(税込)

当日料金: 一般¥1800円 学生¥1500円 中小シニア¥1000円(各税込)

JR有楽町駅前 ビックカメラ7F
シネカノン 有楽町1丁目
<http://www.cqn-cinemas.com> TEL03-3283-9660
[全席指定/入替制]

東京区 有楽町1丁目
シネカノン 有楽町1丁目
ビックカメラ7F
有楽町線
有楽町線
有楽町線
有楽町線